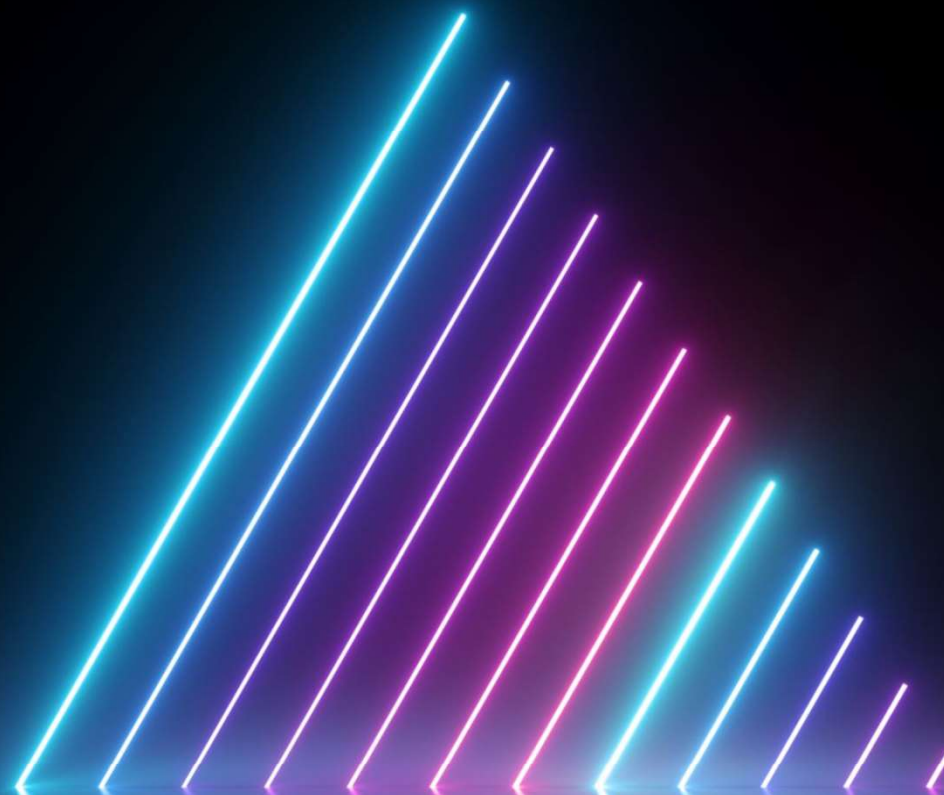


cyberpunks

cyberpunksの DX研修サービス デジタル人材養成所

株式会社cyberpunks



経産省を中心に社会全体で生成AIを活用したDX推進が行われています

「DXを積極的に推進を」 齋藤経産相が生成AIなど先端技術の支援策にも意欲

12/20(水) 20:41 配信 3 電波新聞

電波新聞 DEMP
DIGITAL



報道各社の共同インタビューに応じる齋藤経産相=20日、東京都千代田区

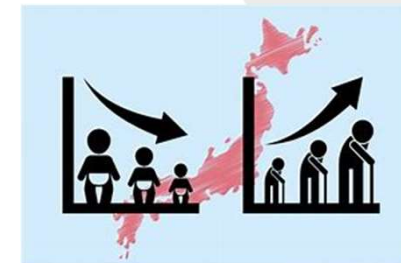
齋藤健経済産業相は20日、電波新聞などの共同インタビューに応じ、「日本の産業競争力強化の観点からも積極的にDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進していかなければならない」と述べた。さらに、生成AI(人工知能)などの先端技術領域の取り組みを産業競争力の向上につなげることに意欲を示した。

齋藤氏はデジタル化で世界の後塵(こうじん)を拝する日本の状況を問題視した上で、「(デジタル化の)遅れの大きな原因の一つはデジタルを活用する人材の不足だ」と指摘。幅広い学びを場の提供を通じてデジタル人材を育てる施策などを重視した。

「デジタル人材」を育成し、企業内発的なDXを推進することにより
部分的な業務効率化を超えた全社的なビジネス変革に繋げることが急務

企業の課題と解決策:人材不足の解消のヒントはDXにあります

- 多くの企業が、技術革新のスピードに追いつけないという課題に直面しています
- 背景には、生成AIやデジタル技術の活用が急速に広がっている中で、それに対応できる人材が不足しているという現状があります
- 私達は3段階のレベル別研修で、本課題の解決を推奨しています



企業が直面する3つの課題

【人材不足】

- 専門的な知識や技術を持つ人材が社内にはいない
- 新しい技術を導入したくても、担当者が不足している

【外部リソースも不足】

- 適切な社外人材を探すのは難しく、外部委託は高コスト

【育成のノウハウがない】

- 新しい技術を社内に取り入れるために、人材育成が必要だが、ノウハウがなく、どこから手をつけていいかわからない



解決策: 3段階の社員育成プラン

生成AI・ビジネスDXの基礎と実務に適用できるスキルを段階的に習得

第1段階: ビジネスユーザー育成 (基礎研修)

【内容】 生成AI・メタバース・デジタルヒューマンの基礎を学び、業務での活用法を理解する。

【対象者】 IT部門やマーケティング部門の社員、現場でのAI・デジタルヒューマン・メタバースツール利用を

想定している社員

【効果】 まずは幅広い社員がツールを使いこなせるようになることで、技術の利活用を推進

第2段階: エキスパート育成 (応用研修)

【内容】 より高度なAIやメタバース・デジタルヒューマンの応用スキルを学び、業務効率化や新しいビジネスチャンス発見を目指す

【対象者】 基礎を理解した上で、業務改善や新規事業の企画に携わる社員

【効果】 AIを使った新しい業務フローの設計や、データ解析を通じた業務改善が可能に

第3段階: エンジニア育成 (専門研修)

【内容】 AIやデジタルヒューマン・メタバースの開発、運用スキルを持つエンジニアを育成、企業内部で技術の運用と最適化を実現

【対象者】 プログラミングやシステム運用に携わる社員、またはその適性がある社員

【効果】 社内で技術を開発・運用できるようになり、他社に依存しない体制を構築

AI・メタバース関連人材は市場でも希少な為、企業にとって重要な人材となる

1. 生成AIは技術者のためだけのものではなく、誰もが使いこなせる

- これまでのAIは、それを操るためにプログラミングなどの技術的知識が必要でした。しかし大規模言語モデルは「人が話す言葉」で操作することができます
- **誰もが使うことのできるAI**が出現したからこそ、世の中をひっくり返すような大変化が今起きています

2. 誰もが使えるから、その活用法を知るか否かで差がつく

- 生成AIを使いこなすことで、日々の業務のちょっとした面倒や不便を驚くほどの利便性で解消することができます
- しかし逆にいえば、それを使いこなせないままにいることによる**機会損失**や「使える人」との**仕事の生産性の格差**が今後急速に拡大していくことを意味します

3. 「使う」こと自体は簡単だが「使いこなす」ためのアイデアが重要

- ChatGPTは知識なしでいきなり使いはじめられますが、しかし同時に、私たちが専門的知見をかみ砕いて解説します
- 様々な知識が念頭にあり、ずっとずっと幅広い事柄に対して、より便利な使い方を適用できるようになります

1. 前提知識をもたない受講者を想定した分かりやすいかみ砕いた説明

- これまで多数の未経験受講者に対してDXの入門的な講義を行い支持を得てきた経験豊富な講師が担当し、先端的な知見を分かりやすく、かみ砕いた言葉で解説します
- これまで受け持ってきた主な受講者層：文系学生や中高生、営業・事務・マネジメントなどビジネス職の方、介護・育児で離職中の方、子育てを終え再就職を目指す方、老後の学び直しを志す方など。いずれも前提知識を持たず、場合によってはPC操作のフォローから行ったケースもあります。

2. 実例ベース・実用志向の講義設計

- 多数の企業にDXを導入してきた実践的経験に基づき、**実例ベースでの具体的なトピック**を中心とした講義設計
- 技術ベースでの頭でっかちな講座設計ではなく、受講してすぐに「役に立つ」内容を重視しています

3. 最先端の知見を元にした正確な内容

- 研究や開発プロジェクトを通じて蓄積している豊富な知識に基づき、**正確かつ要点を抑えた解説**をお届けします

研修料金について



助成金により訓練対象者1人あたり1時間低負担の価格で研修を実施
助成金の準備をするためのサポートも充実

	中小企業	大企業
講義数	60分(50分講義+10分まとめ)×10コマ	
期間	2日間～5日間（計10時間）	
実施方法	オンライン形式（同時双方向通信型）	
研修料金（定価）	40万円(税抜)/人	40万円(税抜)/人
助成金	* 30万円(税抜)/人	20万円(税抜)/人
実質負担費用	10万円(税抜)/人	20万円(税抜)/人

* 中小企業様の場合、定価の75% + 1時間あたり賃金補助960円。大企業様の場合、定価の60% + 1時間あたり賃金補助480円。

※ 研修プランの最低履行人数は中小企業様は5人、大企業様は10人となります。
指定のオンラインツールが使用可能なPC等と通信環境が必要となります。

AI活用DXの業務適用：AI活用DXでビジネスを変革する



- 生成AI・DXは、単なる未来の技術ではなく
“現在のビジネスを変革する”強力な手段です。
- 研修では、これらの技術がどのように業務に適用できるかを学び、企業の競争力を高める方法を探ります



生成AIの業務活用

代表例：自動化と業務効率化

【例1: 顧客サポートの自動化】

- 生成AIを活用したチャットボットや自動応答システムにより、24時間対応の顧客サポートを実現

【例2: コンテンツ生成】

- マーケティング用のコンテンツや、製品説明文、プレゼン資料などをAIで自動生成、クリエイティブな作業を効率化

【例3: データ分析と予測】

- AIを利用して大量のデータを短時間で分析し、ビジネスインサイトを得ることで、迅速な意思決定を可能に

研修では実際のツールを使って、自動化やデータ分析のハンズオン演習を実施、どのように業務に適用できるかを体感します

デジタルヒューマンの業務活用

代表例：デジタルヒューマンによる接客

【例1: バーチャルな顧客対応】

- メタバース内でデジタルヒューマンを使い、リアルな接客体験を提供。顧客満足度を向上させる新しい手法として注目。バーチャル営業担当者が顧客に24時間対応し、見込み客との商談設定を自動化し、業務負荷を軽減。

【例2: 仮想展示会や商談】

- 仮想空間での展示会や商談の開催
- 遠隔地の顧客ともリアルタイムで接触することで、商談機会を拡大

研修ではデジタルヒューマン制作や、メタバースプラットフォームを使用して、バーチャル会議や展示会のシミュレーションを体験、具体的な業務活用の方法を学びます

ビジネスユーザー育成（基礎研修）



- 【目標】
- ・ ChatGPTをはじめとする生成AIの基本を理解することができる
 - ・ デジタルヒューマンの概要や要素技術、活用方法を理解できる
 - ・ メタバースの概要と要素技術、活用事例について理解できる
 - ・ メタバースの中で、AIやデジタルヒューマンの要素技術がどのように利用されているかを体験を通じて理解することができる
 - ・ これらのセキュリティの重要性を理解することができる

【10時間】

- ・ DXビジネス研修
- ・ メタバース研修
- ・ 生成AI研修
- ・ デジタルヒューマン研修
- ・ セキュリティ研修
- ・ まとめ

カテゴリ	タイトル
座学(5時間) ※体験の説明含む	✓ DXを理解する ✓ メタバースを理解する ✓ AI・ChatGPTを理解する ✓ デジタルヒューマンを理解する ✓ メタバース・AI・デジタルヒューマンとセキュリティ・リスク課題
体験(4時間)	✓ DX準備の実情把握とアクションプラン作成 ✓ メタバースを体験する (アバター、基本動作、プレゼン、ミーティングなど) ✓ 生成AIの様々な業務活用を考える ✓ デジタルヒューマンのビジネス活用
まとめ(1時間)	✓ 本研修の意義の確認/まとめ

* 研修対象者の訓練目的、レベルに合わせたカリキュラムを選択して研修実施が可能です。

エキスパート育成（応用研修）



- 【目標】
- ・ 自社AIサービスを考案できるようになること
 - ・ 自社デジタルヒューマンサービスを考案できるようになること
 - ・ 自社メタバースサービスを考案できるようになること
 - ・ これらのセキュリティの重要性を理解し、対策を行い自社事業の実行できるようになること

【10時間】

- ・ メタバース研修
- ・ 生成AI研修
- ・ デジタルヒューマン研修
- ・ セキュリティ研修
- ・ まとめ

カテゴリ	タイトル
座学(5時間) ※体験の説明含む	✓ AIの取り巻く環境・戦略基礎・特化型AI等 ✓ デジタルヒューマン技術要素・収益モデル・コスト・導入戦略等 ✓ メタバース・AI・デジタルヒューマンの倫理・セキュリティ・ガバナンス等
体験(4時間)	✓ AI・デジタルヒューマン・メタバース戦略立案演習 (現状分析・課題抽出・投資計画・実行計画・リスク対策等) ✓ 生成AIの業務活用演習(ChatGPTやその他AIサービス) ✓ デジタルヒューマン制作 (自己紹介・対話型など)
まとめ(1時間)	✓ 最終プレゼン

* 研修対象者の訓練目的、レベルに合わせたカリキュラムを選択して研修実施が可能です。

エンジニア育成（専門研修）



- 【目標】
- ・ 自社AIサービスを考案するためのエンジニアスキルを育成する
 - ・ 自社デジタルヒューマンサービスを考案するためのエンジニアスキルを育成する
 - ・ 自社メタバースサービスを考案するためのエンジニアスキルを育成する
 - ・ これらのセキュリティの重要性を理解し、対策を行い自社事業の実行できるよう専門知識をつけること

【10時間】

- ・ 生成AI研修
- ・ デジタルヒューマン研修
- ・ セキュリティ研修
- ・ まとめ

カテゴリ	タイトル
座学(5時間) ※体験の説明含む	✓ AI機会学習基礎・データ処理・モデリングと評価等 ✓ デジタルヒューマンにおける音声・画像処理理論・対話設計手法等 ✓ AI法規制とセキュリティ等
体験(4時間)	✓ AI開発演習(モデル選定・データ前処理・基本実装・モデル最適化・PoCデモ等) ✓ デジタルヒューマン開発演習(音声処理技術・事前言語処理・ビジュアル表現技術等) ✓ インタラクション設計・統合システム・パフォーマンス最適化等
まとめ(1時間)	✓ 最終プレゼン(成果発表・デモンストレーション)

* 研修対象者の訓練目的、レベルに合わせたカリキュラムを選択して研修実施が可能です。

講師紹介(一例)



実際に企業DX活用の経験とノウハウが豊富なエキスパートや
技術面ではフルスタック開発・AI技術の実績を持ち、スタートアップ経験を活かす
多彩なエキスパート講師がしっかりサポート



小山優雄

<略歴>

- 横浜国立大学、経営学部を卒業。
- 大手保険会社に入社し、多数の大規模プロジェクトリーダーを経験。
- 東証スタンダード上場のシステム会社 事業統括部門のマネージャーに就任。
- 大手クライアントのシステム基盤の刷新。コンサルティング会社を起業。内部統制やPMI業務を主導。
- 東証プライム市場上場会社で取締役、グループCIOに就任。システムインフラの全面刷新。基幹システムのリニューアルを主導。
- コンサルティング会社を再起業。経営からデジタル領域まで幅広いアドバイザーとして活動



若林怜帆

<略歴>

- 2006年に有限会社ノヴァトレードを設立しWebからインフラまで幅広いシステム開発事業を展開。
- 教育事業ではAI、Kaggle、Java等の分野で実践的な講師活動を展開し幅広い人材を多数育成。
- 2022年にAIスタートアップを起業、国内AI研究の第一人者、東大松尾開発スタートアップに選ばれ、最先端AI技術の開発と事業化に従事。
- 現在はノヴァトレードに戻り、長年培ったシステム開発力を活かした先進的なAI開発に注力。
- 強みは実務経験に基づく実践的指導、最新技術と企業ニーズを反映した包括的な技術指導。

* 各カリキュラムの内容に合わせてスキル、経験豊富な講師が担当致します。

助成金の活用:今なら受講料の最大75%補助を受けられます



リスキリング助成金の概要

	中小企業	大企業
受講料	40万円/人（税別）	
受講日数	2日間	
受講時間	10時間～	
助成金額上限	30万円/人	20万円/人
助成率上限	75%	50%
実質負担	10万円/人	20万円/人

中小企業の範囲

主たる事業	A 資本金の額または出資の総額	B 企業全体で常時雇用する労働者の数
小売業（飲食店を含む）	5,000万円以下	50人以下
サービス業	5,000万円以下	100人以下
卸売業	1億円以下	100人以下
その他の業種	3億円以下	300人以下

リスキリング助成金支給までの流れ

✓ 研修初日の1か月前までに計画提出

✓ 研修最終日から2か月以内に申請

職業訓練実施計画届他の提出

- 訓練開始日の1か月前までに提出
 - 提出先：管轄労働局/ハローワーク
 - 労働局で書式や記載事項などの確認を受け、訂正や書類追加等の対応を実施
- 【注意】
年度末は申請が集中、計画届受理までに時間がかかることが予想されます
なるべく早めのお申込みをお勧めします

トレーニング実施

支給申請

- 訓練終了日の翌日から起算して2か月以内に必ず申請
- 提出先：管轄労働局
- 計画提出時に申請時の提出を求められた書類一式を作成・提出

労働局審査後に支給

*人材開発支援助成金 - 事業展開等リスキリング支援コース

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/kyufukin/d01-1.html

参考:人材開発助成金－事業展開等リスクリング支援コース



企業内での人材育成に取り組む事業主の皆さまへ

新規事業展開やDX推進等の人材育成に「人材開発支援助成金」が活用できます～「事業展開等リスクリング支援コース」のご案内～

人材開発支援助成金は、事業主が雇用する労働者に対して訓練を実施した場合に、訓練経費や訓練期間中の賃金の一部を助成する制度です。「事業展開等リスクリング支援コース」では、新たな事業の立ち上げなど事業展開に伴い必要となる知識および技術を習得させるための訓練を助成の対象にしています。

支給対象

対象者 事業主：雇用保険適用事業所の事業主
労働者：雇用保険被保険者

訓練

- ① 訓練時間数が10時間以上であること
- ② OFF-JT（企業の実業活動と区別して行われる訓練）であること
- ③ 職務に関連した訓練で、以下のいずれかに該当する訓練であること

- i. 企業において事業展開を行うにあたり、新たな分野で必要となる専門的な知識および技術の習得をさせるための訓練
- ii. 事業展開は行わないが、事業主において企業内のデジタル・デジタルトランスフォーメーション（DX）化やグリーン・カーボンニュートラル化を進めるにあたり、これに関連する業務に従事させる上で必要となる専門的な知識及び技術の習得をさせるための訓練

注：本コースでは、事業展開などの内容を記載した「事業展開等実施計画書」（様式第2号）を職業訓練実施計画と併せて提出する必要があります。取り組み内容を整理し、具体的な記載ができるよう、事前に準備をお願いします。

注：「事業展開」は、訓練開始日から起算して、3年以内に実施する予定のものまたは6か月以内に実施したものである必要があります。

【参考】事業展開の例：新商品やサービスの開発、製造、提供または販売を開始する、等
デジタル・DX化の例：ITツールの活用や電子契約システムを導入し、社内のペーパーレスを進める、等
グリーン・カーボンニュートラル化の例：農家の意向にトラクターを使用していたが、ドローンを導入した、等

助成率・助成額

① 助成率・助成限度額

経費助成率		賃金助成率（1人1時間）		1事業所1年度あたりの助成限度額
中小企業	大企業	中小企業	大企業	
75%	60%	960円	480円	

② 受講者1人あたりの経費助成限度額

10時間以上100時間未満		100時間以上200時間未満		200時間以上	
中小企業	大企業	中小企業	大企業	中小企業	大企業
30万円	20万円	40万円	25万円	50万円	30万円

注：eラーニング、遠隔型、定額制サービスによる訓練は経費助成のみです。

厚生労働省 都道府県労働局・ハローワーク LL050518第01

助成金活用例

例)新規事業のための人材育成を行った場合

訓練

1年間に先端技術(IoTや画像AI)を活用した安全監視のためのシステムを設計・開発・販売する事業を新たに立ち上げたいが、現在は対応できる人材が足りない。

実施訓練

- 訓練コース
AI技術の基礎および応用
- 訓練内容
AIの基礎知識、機械学習等の訓練
訓練時間：30時間（7.5時間×4日間）
訓練経費：25万円/1人
4人受講する場合：100万円/4人

助成内容・成果

【助成率・額】
経費助成：75%（中小企業）
賃金助成：1時間あたり960円（中小企業）

【左記の訓練内容の場合の例】

- 経費
経費助成：75万円（25万円×75%×4人）
賃金助成：115,200円（30時間×960円×4人）
- 成果
無事に新規事業を立ち上げることができ、新技術を活用した新製品や新サービスの開発、製造等を開始することができた。

助成金受給のための手続きの流れ

Step0 職業能力開発促進者の選任、事業内職業能力開発計画の策定・自社の労働者に対する周知

●事業内職業能力開発計画に基づき、職業訓練実施計画を作成する
●作成した必要書類を訓練開始日の1か月前までに管轄労働局に提出する

■主な提出書類

所定の様式	添付書類
職業訓練実施計画書 事業展開等実施計画書 訓練別の対象者一覧 など	訓練内容を確認できるカリキュラム 訓練期間中の労働条件がわかるもの（雇用契約書の写しなど） など

Step1 計画提出（管轄労働局へ）

Step2 訓練実施

●職業訓練実施計画に基づき訓練を実施する
●支給申請までに、訓練にかかった経費全額を支払う

●訓練終了日の翌日から2か月以内に、必要書類を管轄労働局に申請する

■主な提出書類

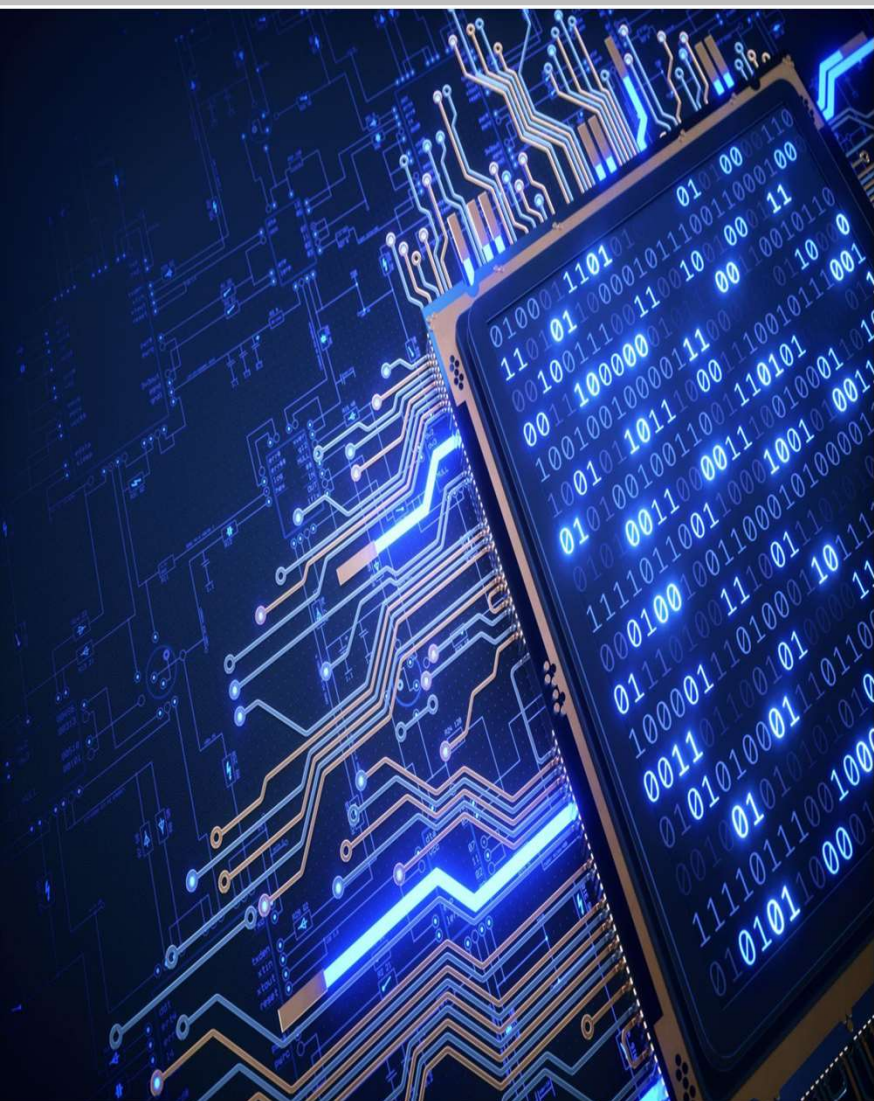
所定の様式	添付書類
支給申請書、賃金助成の内訳等助成額を算定した書類 OFF-JT実施状況報告書 など	事業主が訓練費用を負担したことを確認できる 振込通知書 出勤簿、タイムカード、賃金台帳の写し など

Step3 支給申請（管轄労働局へ）

【各都道府県労働局の助成金申請窓口】

●URL: <https://www.mhlw.go.jp/general/seido/josei/kyufukin/toiwase.html> ●スマホはこちら→

デジタル人材養成所研修の導入プロセス



1

公式サイトにアクセス

トップページ下にある問合せフォームに記入頂きお申込み

公式サイトURL: <https://www.cyberpuncs.jp/>

メールアドレス: info@cyberpuncs.jp

2

カリキュラムの調整～実施調整

最適なカリキュラムを協議の上で調整

実施スケジュールについてすり合わせ

3

研修実施～フィードバック

研修の受講、およびフォローアップ

お問い合わせお待ちしております

株式会社cyberpunks
メールアドレス : info@cyberpunks.jp